

# 最新のCOPD治療

## ——大規模臨床試験の結果から

COPD治療薬の大規模臨床試験——overview

COPDにおける早期治療介入の有用性を示したチオトロピウムの長期大規模臨床試験——UPLIFT Study

サルメテロール/フルチカゾン配合剤の大規模臨床試験——TORCH試験などの結果

吸入ステロイドはCOPD治療に必要か——効果的な症例は？

COPD治療に $\beta_2$ 刺激薬をいかに使用すべきか

COPD治療における去痰薬の意義

COPD臨床試験解釈の注意点——結果をどう臨床に生かすのか？

### ■連載

医師のための臨床統計学

統計的推測の基礎（11）推定論④

逆システム学の窓

チェルノブイリ原発事故から甲状腺癌の発症を学ぶ

——エビデンス探索 20年の歴史を辿る

シリーズ “グローバル化時代の漢方” ㊦

## 漢方医学をめぐる国際的諸問題

渡辺賢治／わたなべけんじ

慶應義塾大学医学部漢方医学センター

### ■国際化の潮流の中でアイデンティティーを失いつつある漢方医学

ICD の改訂に東アジア伝統医学が取り入れられようとしていることについては前回(231 巻 3 号)で述べた。一見順調のように見える伝統医学のグローバル化であるが、逆に日本漢方のアイデンティティーが失われてしまう可能性も含んでいる。

日本漢方を推進するわれわれの立場は、漢方医学は中国由来ではあるが、既に 1,500 年間の日本での発達を遂げているので、日本の伝統医学と考えている。事実同じ処方でも日中韓ではその使い方に相当差がある。

しかしながら世界を見ると、この 10 年以上中国が中医学の国際化の推進を行ってきた結果、欧米の多くの医師・患者が中医学(traditional Chinese Medicine: TCM)を認識しているのに対し、漢方医学(Kampo Medicine)を認識する人はほとんどいない。

中国は TCM という言葉をブランドとして広めたい意向があり、世界各国にネットワークを張っている。その最も大きなものが世界中医薬学会連合会(WFCMS)であろう<sup>1)</sup>。2003 年に中国政府の援助によって創設され、50 以上の国と地域から 150 以上の TCM 学術団体より構成される、一大学術コンソーシアムである。当然のことながらこの組織は中医学の国際化を推進するために役立っている。

### ■中国の ISO への提案

前号に掲載したような WHO ICD-11 への改訂の中に伝統医学を入れる計画が進行していく中で、中国は 2008 年 4 月に突然 ISO(国際標準化機構)の TC215(保健医療情報)<sup>2)</sup>に中国国内の医療情報を国際標準にするように要求した。この時は唐突だったので、受け入れられなかったが、2008 年 10 月のイスタンブールの会議、2009 年 4 月イ

スタンブールの会議でついにタスクフォースを作ることが決定した。ただし、取りまとめは韓国代表が行い、中国の主張した TCM(伝統中医学)のワーキンググループではなく、TM(伝統医学)のタスクフォースとなった。ここでも中国は大分不満を残した形であった。

それとは全く別の動きが突如 2009 年 5 月に起こり、中国から既存の ISO 専門委員会ではなく、新しい専門委員会を作る、という提案がなされ、投票となった。その結果賛成多数であったが、委員会を管理する技術管理評議員会の決定は、日本、韓国とよく話し合いをし、再度提案するように、というものであった。

### ■情報発信の欠如による漢方医学の存在の希薄化

中国は国策として中医学(TCM)の国際化を図っている。2006 年 7 月には科学技術部・衛生部・国家中医薬管理局が共同で、中医薬の現代化と国際化のための『中医薬国際科技合作企画綱要』(2006~2020)を公布し、国家戦略として行っている。国家中医薬管理局<sup>3)</sup>には 70 人あまりの専従職員がおり、国際合作部も存在し、中医学の国際化を図っている。韓国も政府には伝統医学専門の部局があり、16 名の専従職員がいる。

このように国家戦略として伝統医学の国際化を推進している中韓に比し、わが国には専従部門が存在しない。

さらに、中国が中医学を広める戦略として“国際中医師”の資格がある。これはもともと自称中医師と称する多くの無資格者を取り締まるための資格認定試験であったが、“国際中医師試験”として発展し、日本においても 1996 年より、毎年試験が実施されるようになっていく。2004 年からは、資格認定は国家中医薬管理局から世界中医薬学会連合会に移管されている。既にこうした資格を認めて診療を許可している国も出始めている。わが国にも中医学大学の日本校があり、中医学を広めるために活動している。

### ■日本では正規医療、しかし海外では補完・代替医療

漢方の世界でよく言われるのが「漢方は補完・代替医療ではない。日本ではれっきとした正規医療だ。だから海外の補完・代替医療の学会には行

かない」と、しかしそうであるのであれば、余計海外で、このことを宣伝すべきではなからうか。海外に漢方の学会がない以上、欧米における補完・代替医療の学会に積極的に出向き、日本の漢方を堂々と主張すればいい。しかしながら海外でのこうした学会で日本の研究者を見ることはほとんどない。

一方、中国・韓国は大挙してそうした学会で発表する。海外に積極的に出向くことは、情報を与えるのみならず、情報収集にも重要な機会なのであるが、日本はそうした努力を怠ってきたため、大きく世界の伝統医学の潮流から遅れを取っている。

#### ■日本からの情報発信を積極的に

中国のやり方は戦略性に富んでいて、脅威に思えるが、彼らの認識は違う。日本でも中医学をやっているから、中国の中医学国内標準を国際化すれば日本にもメリットがあるであろう、という考えである。そこで「日本の伝統医学は確かに中国から伝来したが、日本に来て1,500年の間に独自の発展を遂げ、現代の中医学とは似て非なるものである」という説明をすると驚かれる。それはわれわれからの情報発信が足りないせいである。

欧米でも然り。多くの人がTCMは知っているが、Kampoは知らないと言う。また、日本式の鍼管のついた鍼だけがFDAで認可されているため、多くの施術者たちが日本鍼を使っているが、“TCM acupuncture”と称しているのである。これも明らかに日本からの情報発信が足りないためである。

このように中国やその他の諸国において、日本の漢方の存在を幅広く情報発信する必要がある。情報発信をすることで、情報収集も可能となるからである。

#### ■日中韓での協力体制の確立

WHO西太平洋地域での会議で日中韓の取りまとめを過去4年にわたり行ってきた経験から、最後に述べたい。

まずはお互いの理解を深めることである。中国は国内では中医学の権威は失墜してきており、海外に活路を見出そうとしている。また、韓国は西洋医学と韓医学との対立の中で新しい道を模索している。こうしたお互いの国の事情が分かってくると助言をし合いながら、どのようにそうした問題を克服したらいいかという知恵が湧き上がってくる。

まずは相互理解を深めることであろう。そのためには民間のみならず国レベルでの交流も必要である。日中韓には保健大臣会議の枠組みがあり、伝統医学が一つのトピックなのであるが、日本政府が対応しきれず進まない。政府、民間を問わずいろいろな交流を推進するために、学会のみならず、政府に専門組織が必要であり、わが国の国家戦略をしっかりと定める必要がある。

#### ■さいごに

世界的な補完・代替医療の潮流により、伝統医学は否が応でも国際舞台に立たされることになった。そんな中で、日本漢方のアイデンティティをどのように保っていくのか、また、何を売りにしていくのかについて真剣に考える時期に来ている。何故ならばICDはじめ、国際的展開によって国内状況が影響を受けることは必至だからである。国際的に漢方をアピールすることは国内的に漢方を守っていくことに他ならない。わが国の文化として育んできた漢方医学が今後も継続して世代を超えて継承されていくためにも重要な時期に来ているものと考えよう。

読者の方々のお力により、漢方医学が永続的に発展していくことをお願いするものである。

#### URL

- 1) 世界中医学薬業連合会. <http://www.wfcm.org/>
- 2) ISO. <http://www.iso.org/iso/>
- 3) 中華人民共和国国家中医薬管理局. <http://www.satcm.gov.cn/>

\* \* \*